

古代宗像氏と沖ノ島祭祀

第52回福岡県地方史研究協議大会
2018年6月23日（土） 13:00～16:00
福岡県世界遺産室 大高 広和

（志賀島から宗像方面を望む）

古代宗像氏と沖ノ島祭祀

1. 沖ノ島祭祀と宗像氏
2. 宗像氏の支配領域と宗像大社

「神宿る島」 宗像・沖ノ島と関連遺産群

新原・奴山古墳群



沖ノ島で祭祀を行い、今に続く島に対する信仰の伝統を育んだ宗像氏の物証

宗像大社沖津宮



活発な対外交流を背景とする 4 世紀から 9 世紀の古代祭祀遺跡が禁忌とともに現代まで守り伝えられてきた、「神宿る島」と岩礁からなる信仰の場

宗像大社沖津宮遙拝所



沖ノ島を遙拝する生きた伝統を伝える、18 世紀に遡る大島における信仰の場

宗像大社辺津宮



沖ノ島から展開した 7 世紀から 9 世紀の古代祭祀遺跡を起源とし、信仰を現代に継承する九州本土の信仰の場

宗像大社中津宮



沖ノ島から展開した 7 世紀から 9 世紀の古代祭祀遺跡を起源とし、信仰を現代に継承する大島の信仰の場

宗像三女神をまつる宗像大社三宮



新原・奴山古墳群



宗像大社沖津宮
(沖ノ島祭祀遺跡)



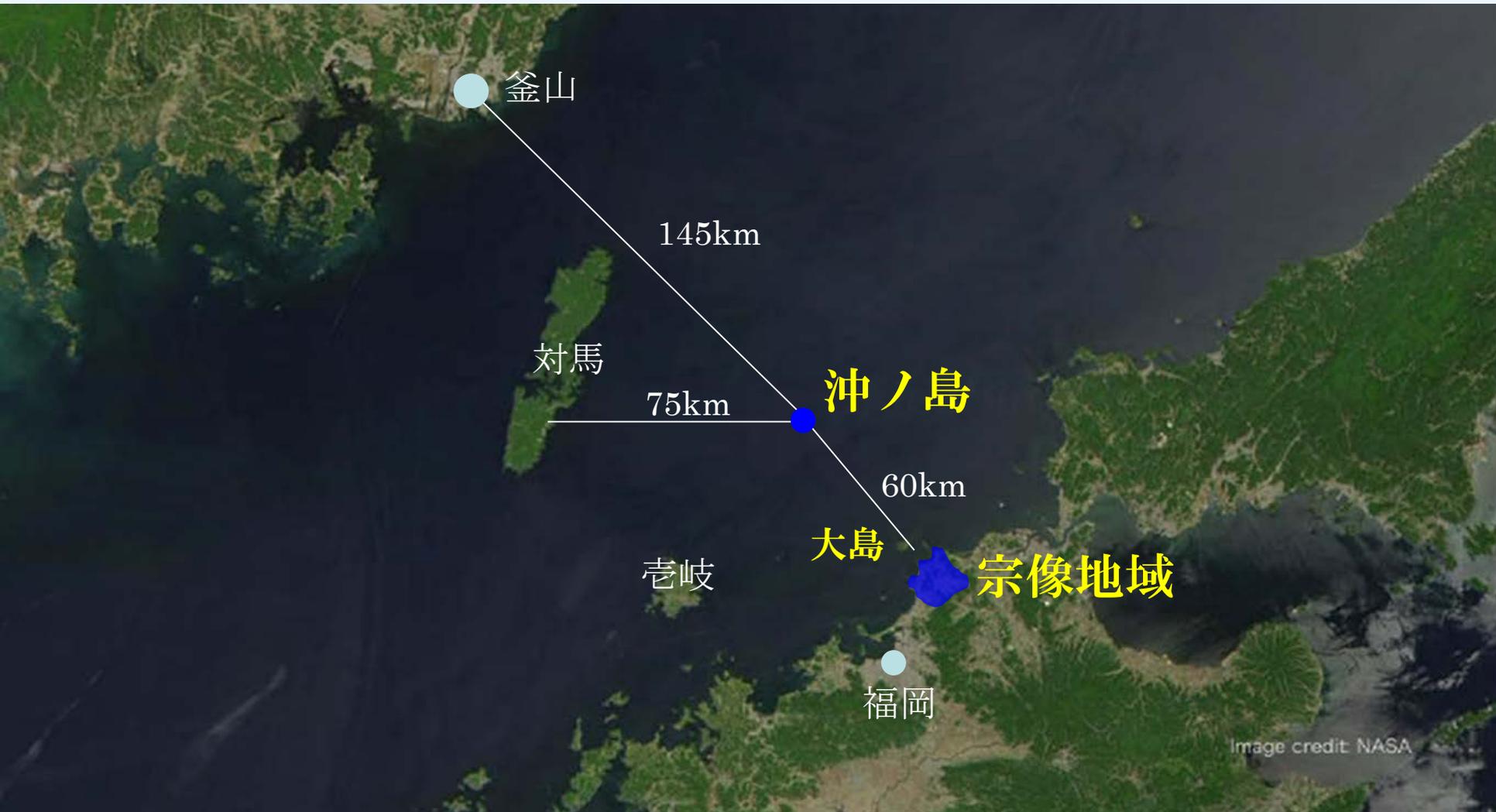
宗像大社中津宮
(御嶽山祭祀遺跡)



宗像大社辺津宮
(下高宮祭祀遺跡)



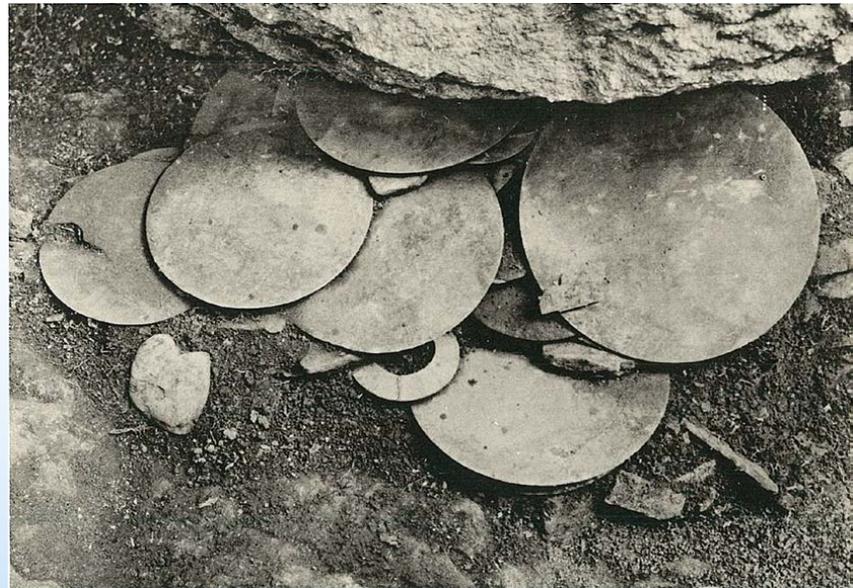
1. 沖ノ島祭祀と宗像氏



沖ノ島祭祀遺跡 (岩上)



17号遺跡 (4世紀後半)



龍鏡



方格規矩鏡

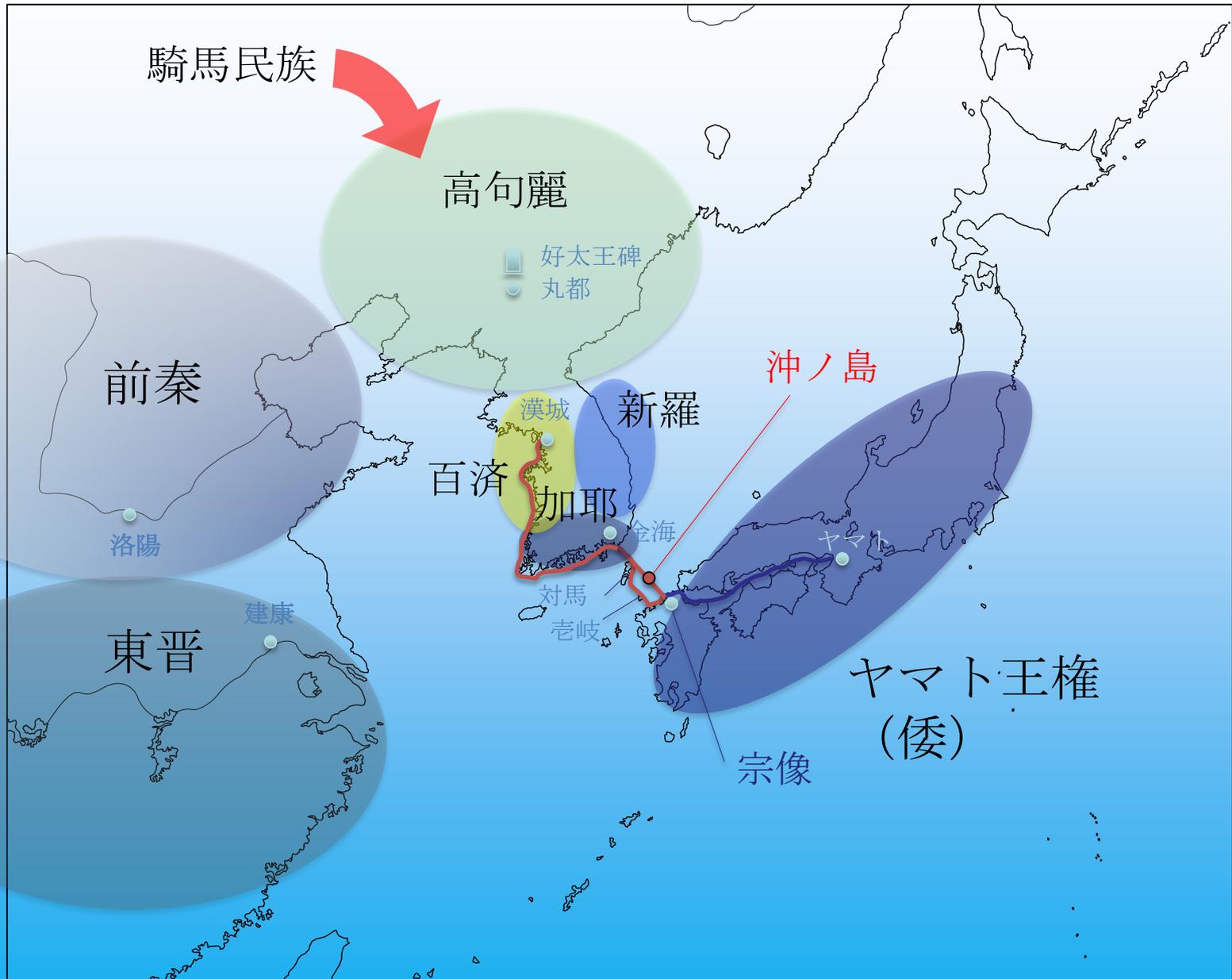


内行花文鏡



夔鳳鏡

沖ノ島祭祀と対外関係（4世紀後半）



石上神宮
七支刀

田熊石畑遺跡



青銅器 (弥生中期)



倉庫群 (6世紀頃)



東郷高塚古墳
(全長64m)
(4世紀後半)

宗像氏の古墳群

←沖ノ島・大島

新原・奴山古墳群

東郷高塚古墳

津屋崎古墳群

旧入海



～南西の上空から～

汝三神、宜降居道中、奉助天孫、而為天孫所祭。 —『日本書紀』卷一、神代上(第一の一書)。天照大神の勅

8世紀

「海北道中」

宗像三女神

宗像氏

神主(宗像神社)
大領(宗像郡)

特別待遇 / 委任

宗像郡

律令国家
(畿内)

神郡

(伊勢、出雲、紀伊、安房、鹿島、香取)

名称	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀	
新原・奴山古墳群					80m (22号墳)
東郷高塚古墳					64 m
勝浦峯ノ畑古墳					100 m
勝浦井ノ浦古墳					70 m
生家大塚古墳					73 m
須多田天降天神社古墳					80 m
須多田下ノ口古墳					82 m
在自剣塚古墳					102 m
手光波切不動古墳					25 m
宮地嶽古墳					35 m

宗像氏の
首長墓

西暦	大領・神主・五位	典拠史料	西暦	大領・神主・五位	典拠史料
673	胸形君徳善 (の娘)	日本書紀	778	宗形朝臣大徳	続日本紀
709	宗形朝臣等杼	続日本紀	798	宗像朝臣池作	類聚三代格
729	宗形朝臣鳥麻呂	続日本紀	813	宗形朝臣秋足	類聚国史
738			817	宗形朝臣勝麿	類聚国史
745	宗形朝臣与呂志	続日本紀	828		
767	宗形朝臣深津	続日本紀			

王権と宗像三女神、宗像氏

『続日本紀』卷十

天平元年（七二九）四月乙丑条

（新日本古典文学大系、岩波書店）

「筑前国宗形郡大領外従七位上宗形朝臣鳥麻呂、奏下可レ供ニ奉神齋一之状。授ニ外従五位下一、賜物有レ数。」（部分）



首長の代替わり毎に朝廷で神への祭祀に供奉することを奏上か。

※出雲国造と類似

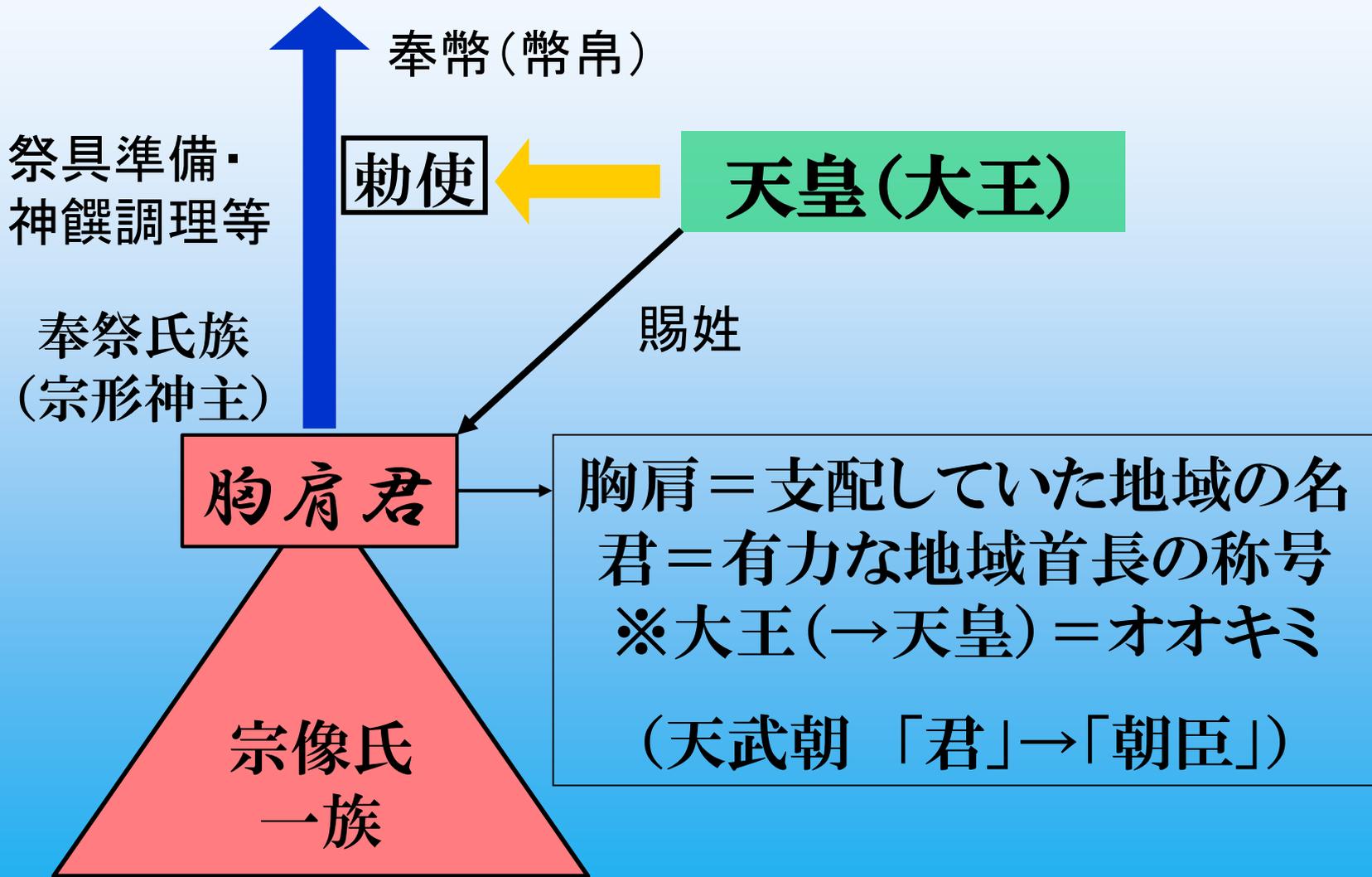
『続日本紀』

文武天皇二年（六九八）三月己巳条

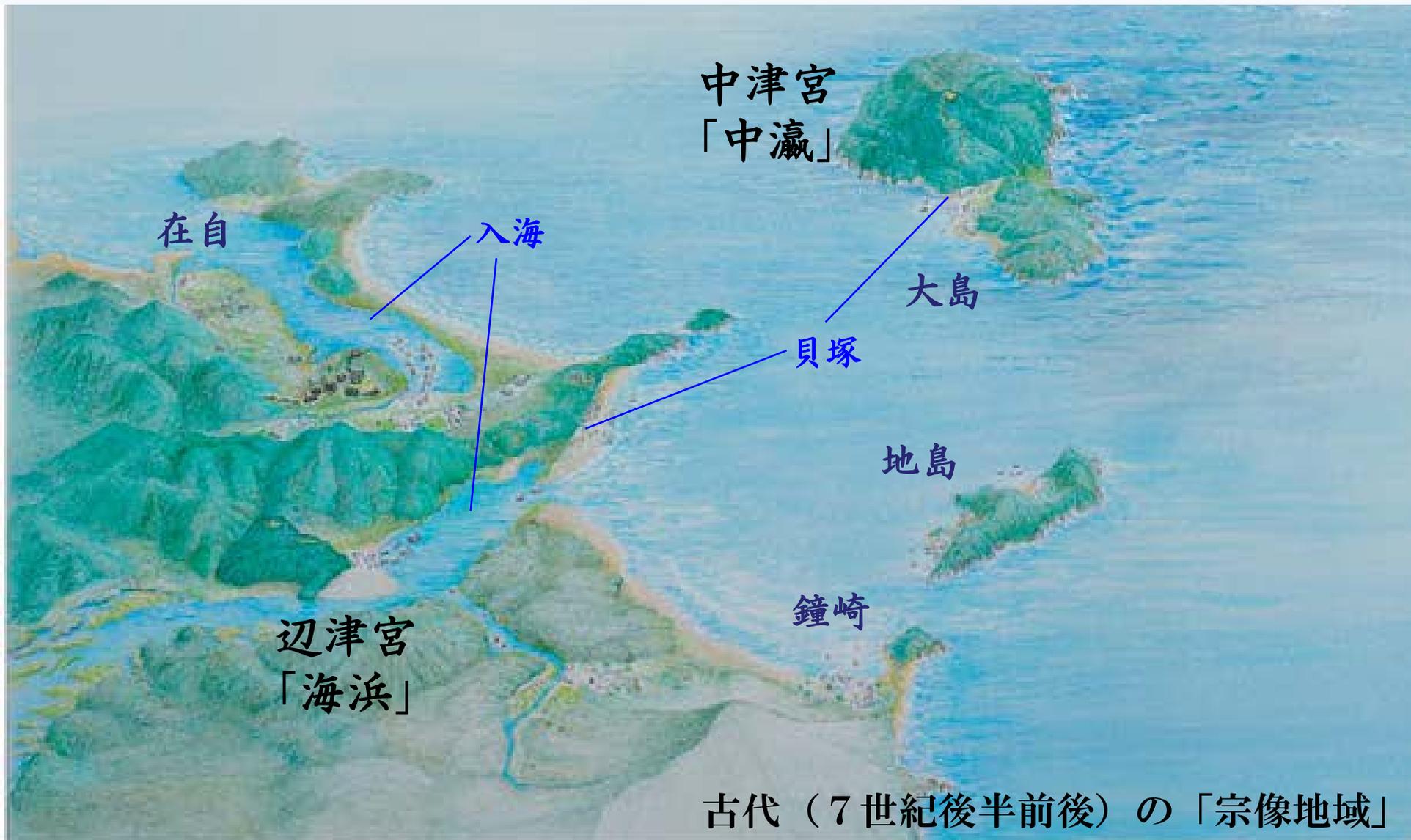
「詔、筑前国宗形・出雲国意宇二郡司、並聴レ連ニ任三等已上親。」

沖ノ島祭祀・古代宗像神社 祭祀の構造

沖ノ島の神／
宗像三女神



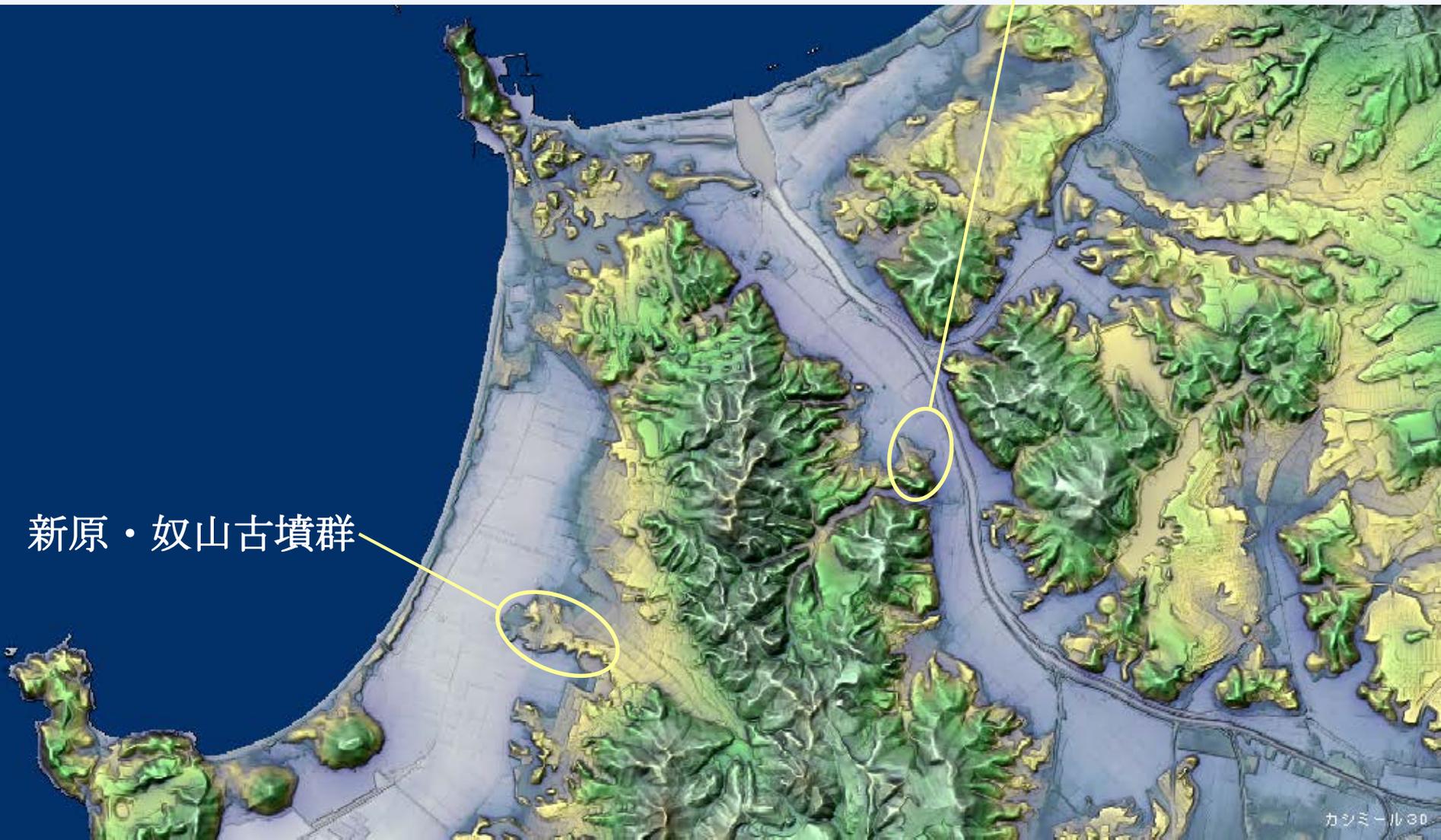
2. 宗像氏の支配領域と宗像大社



遺産群周辺地形図（九州本土）

宗像大社辺津宮

新原・奴山古墳群



古代宗像地域と海

『類聚符宣抄』卷一

(新訂増補国史大系、吉川弘文館)

天元二年(九七九)二月十四日官符

(「応レ補下任坐_ニ筑前国_ニ宗像宮大宮司

正六位上宗形朝臣氏能_上事」)

「去天慶年中以往、不_レ置_ニ件宮司_一、
只以_ニ神主職_一為_ニ雜々執行之長_一。

其時年慶度々祭、只臨_ニ山海_一為

レ先_ニ漁獵_一。而藤原純友凶乱和平之

後、登_ニ坐正一位勲一等之階_一、爰

源清平朝臣為_ニ彼時大式_一之間、可_下

言_ニ上公家_一奉_{上レ}授_ニ菩薩位_一之由、

託宣頻了。仍且注_ニ託宣旨_一言_ニ上解

文_一、且為_レ使_ニ少式藤原朝臣惟遠_一、

奉_レ授_ニ菩薩位_一矣。自_レ余以来、長

停_ニ狛山漁海之祠祀_一、修_レ法施_ニ登

覺之善根_一。」(部分)



海の幸、山の幸を神に捧げる
生活文化や信仰の伝統が存在

古代宗像郡の郷

『和名類聚抄』郡郷部（高山寺本）

（新天理図書館善本叢書七）



秋	山田	怡土	荒自
野坂	荒木	海部	席内
深田	蓑生	辛家	小荒
大荒	津九		

筑前最多の十四郷

（×一郷平均約千人

＝人口約一万四千人？）

古代宗像郡の郷の位置

秋

山田

怡土

荒自

野坂

荒木

海部

席内

深田

蓑生

辛家

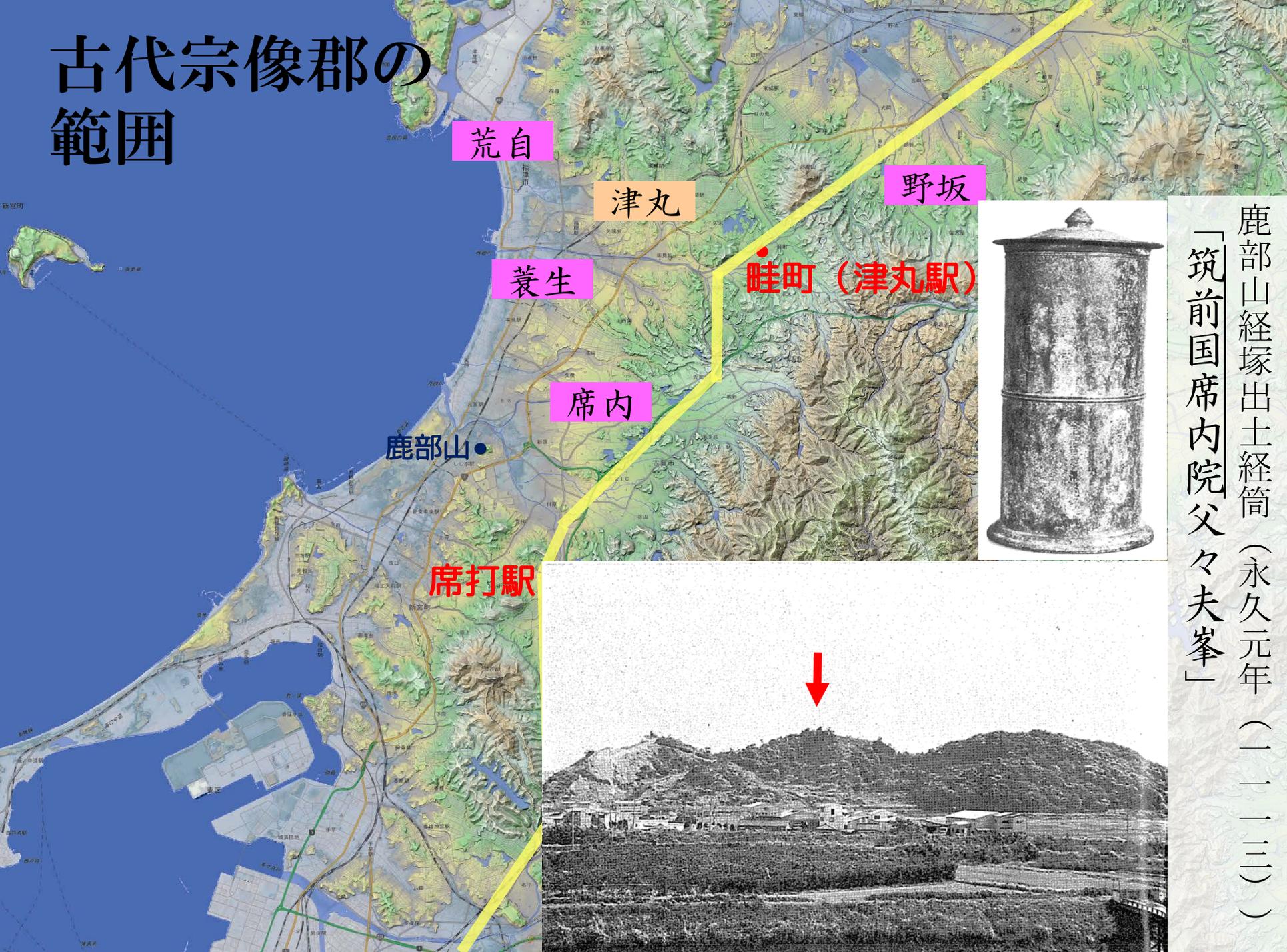
小島

大島

津丸



古代宗像郡の 範囲



荒自

津丸

野坂

蓑生

睦町 (津丸駅)

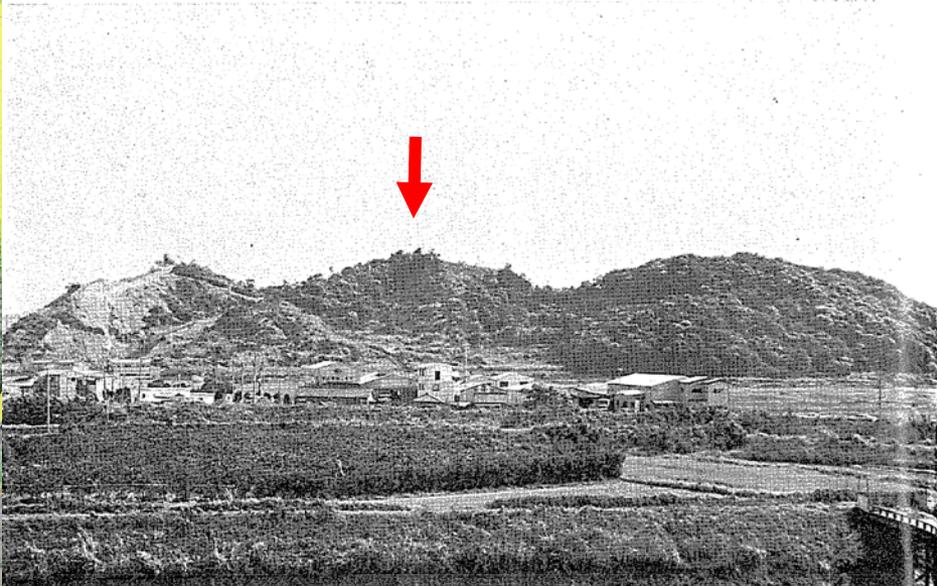
席内

鹿部山

席打駅



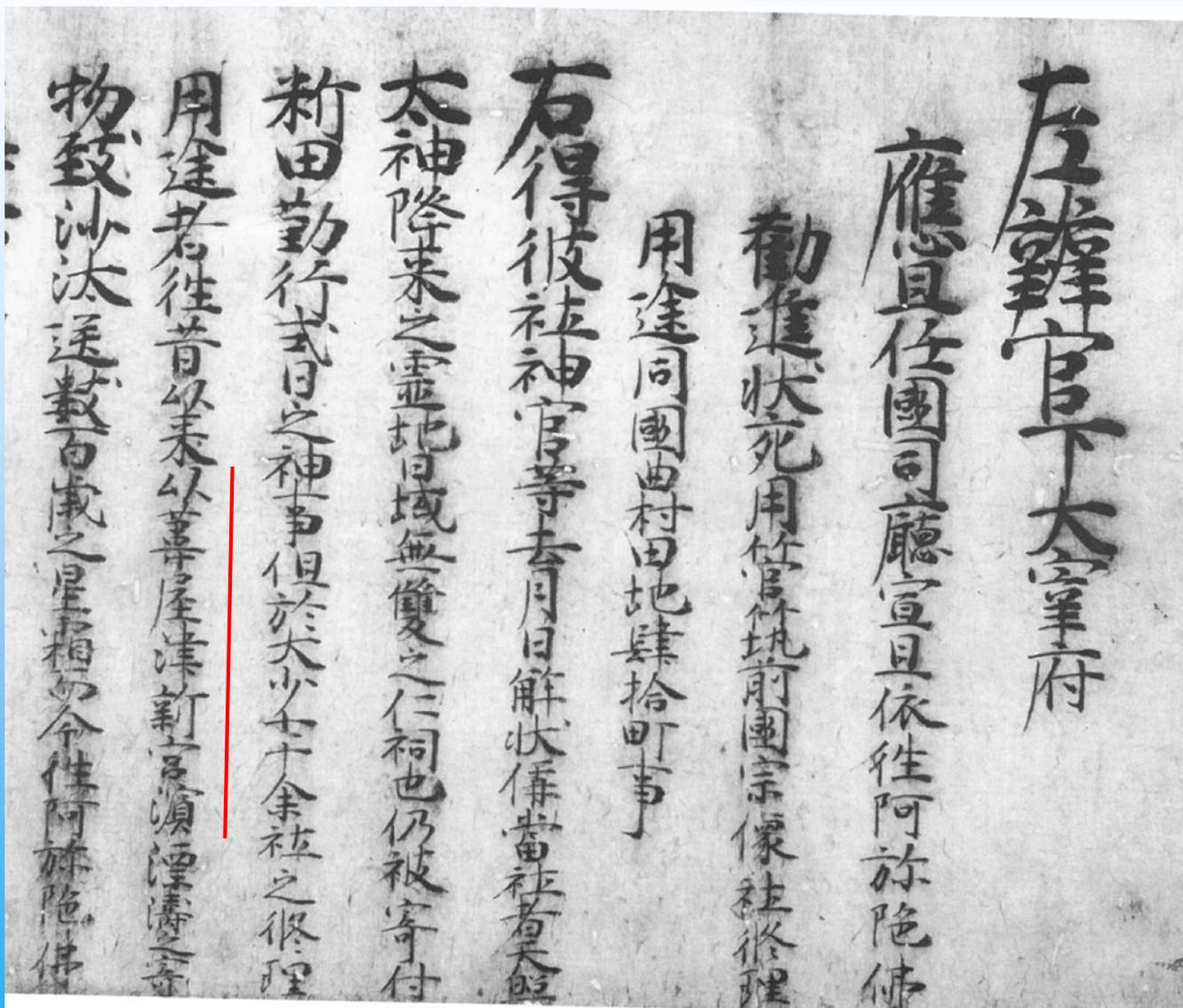
鹿部山経塚出土経筒 (永久元年 (一一一三))
「筑前国席内院父々夫峯」



中世宗像大宮司家の（海の）勢力範囲

寛喜三年（一二三二）四月五日官宣旨

（『宗像大社文書』一、八卷文書第一卷の九）



↓古来より「蘆屋津」から「新宮浜」ま

での海岸への寄物（遭難船の積荷やそれ
らからの漂着物）は宗像社の末社七十余
の修理用途に用いることとなっていた。

郷と駅的位置からみる古代宗像郡の範囲

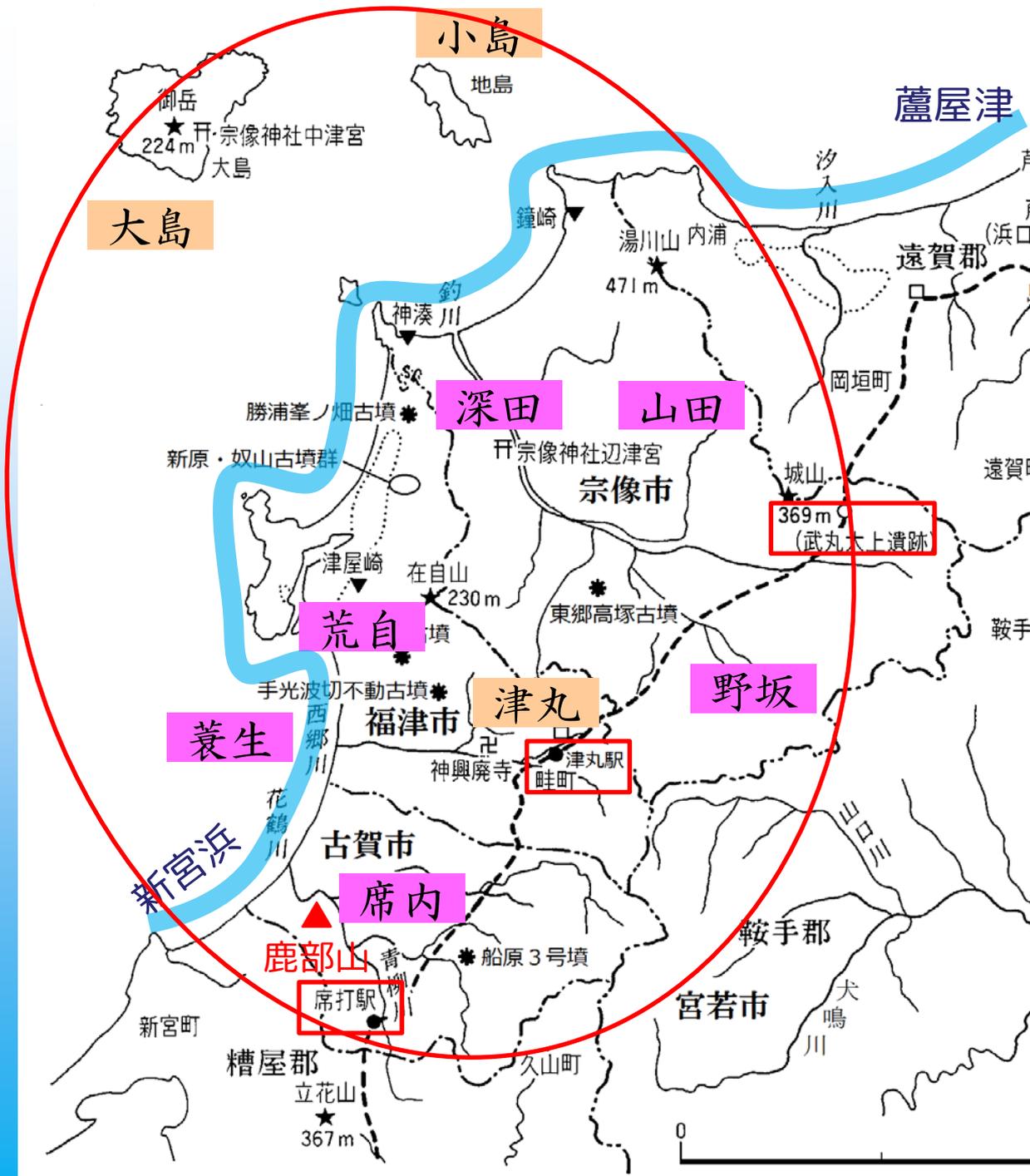
秋

怡土

荒木

海部

辛家



宗像郡の名児山と道

『万葉集』卷六（九六三番）

天平二年（七三〇）十一月に大伴坂上郎女が大宰府から京に「上道」して帰る際「筑前国宗像郡」の「名児山」を越える時の歌

大汝 少彦名の神こそば

名付けそめけめ 名のみを

名児山と負ひて 我が恋の
千重の一重も 慰めなくに

↓十八世紀初めの『筑前国続風土記』以来、「名児山」は宗像大社辺津宮（田島）の西、勝浦（津屋崎）側との間の山を想定。

古代駅路（官道）もこのルートに想定されてきた。

↓しかし、駅路は「津丸」駅ともども内陸側に推定される。

新宮町の三本松山 = 「名子山」



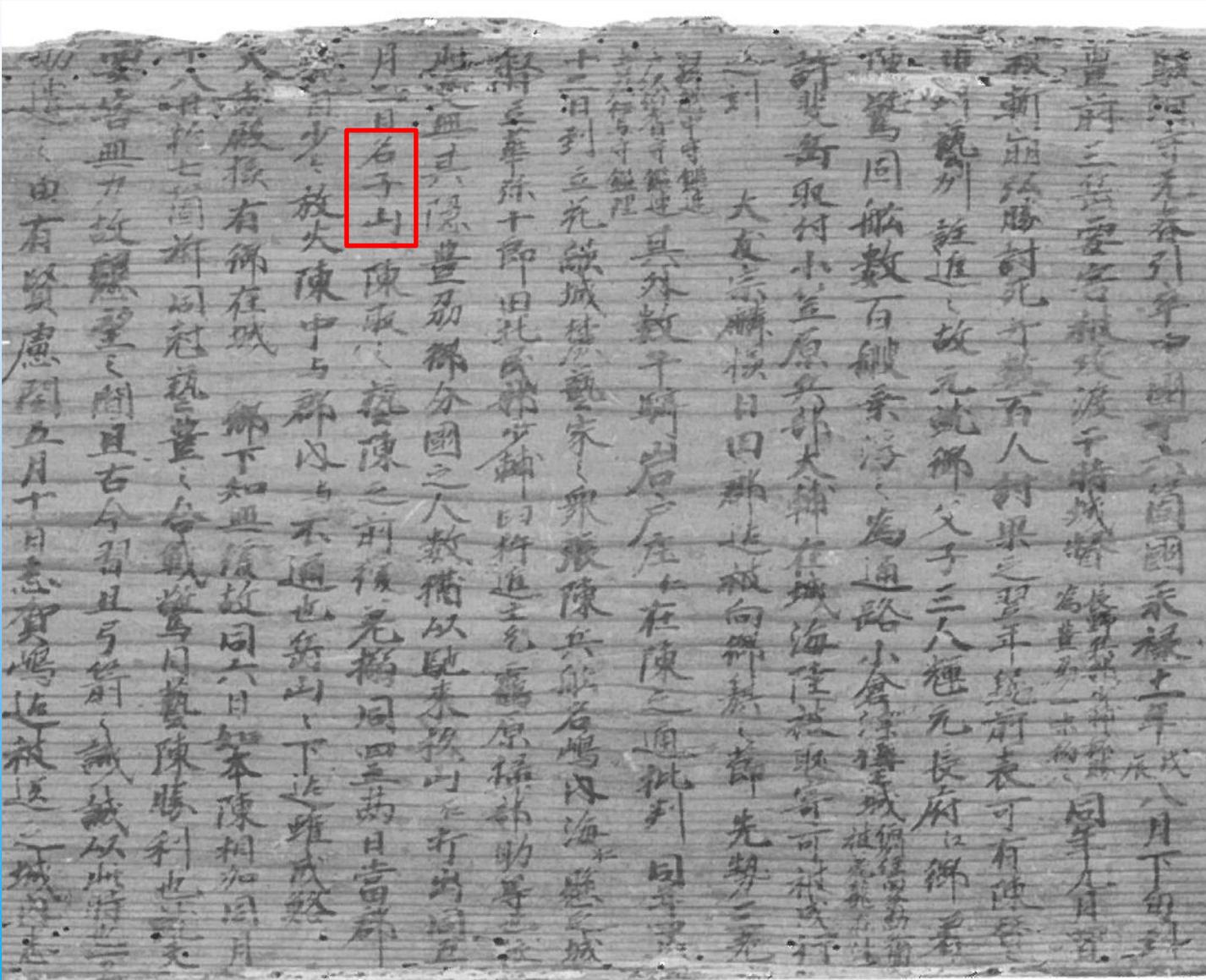
『糟屋郡志』(一九二四年)
三本松山(海拔一五〇米)
立花山の東南にあり、一名を名子山と云、
山麓竹原より絶頂へ八町草立陰阻なり。

中世の「名子山」 = 三本松山

「宗像第一宮御宝殿置札」 (部分)

天正六年 (一五七八)

(『宗像大社文書』四)



↓田島・勝浦間の「名見山」の初見 (『筑前国続風土記』) よりも古い。

県道35号線大谷交差点（南側）からみた 三本松山



大汝 少彦名の神こそば 名付けそめけめ 名のみを
名見山と負ひて 我が恋の 千重の一重も 慰めなくに

古代宗像郡の 範囲と名見山



至 名称不明駅
(武丸大上げ遺跡)

宗像市

荒自

福津市

津丸

野坂

蓑生

津丸駅推定地
(畦町)

鹿部山

古賀市

席内

現在の市町界

裏粕屋

磯崎鼻

新宮浜

新宮町

席打駅推定地
(瓦出土)

表粕屋

「伊野・香椎
の山」

三本松山
(名子山)

福岡市

官道想定
ライン

久山町

至 夷守駅
(内橋坪見遺跡)

考古学からみた宗像氏の勢力範囲

「宗像郡」 (=宗像市・福津市)、遠賀郡西部、鞍手郡西部、
「糟屋郡北部」 (=古賀市・新宮町) の墓制

→宗像氏を中心とする同一の墓制をもつ集団が居住 (小嶋2012)

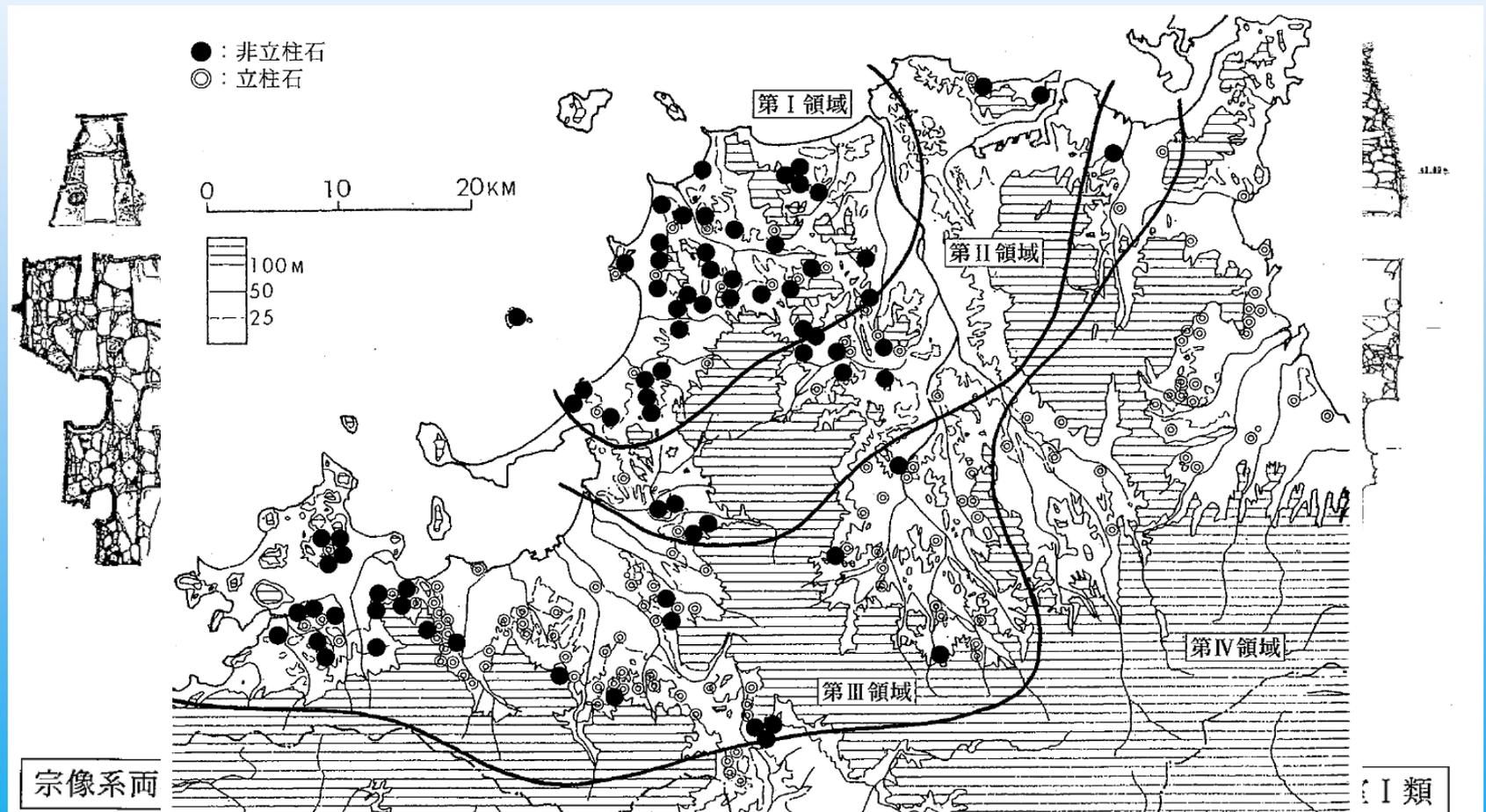


図3

図14 宗像型石室と宗像系石室の分布域

墳

「宗像郡」以外で宗像型の石室が集中



・ 古賀市花鶴川流域

・ 遠賀郡西部
汐入川流域

→ 『和名類聚抄』で遠賀郡に「宗像郷」

・ 鞍手郡西部
靡山南麓

→ 宮若市上有木・下有木が荒木郷か。

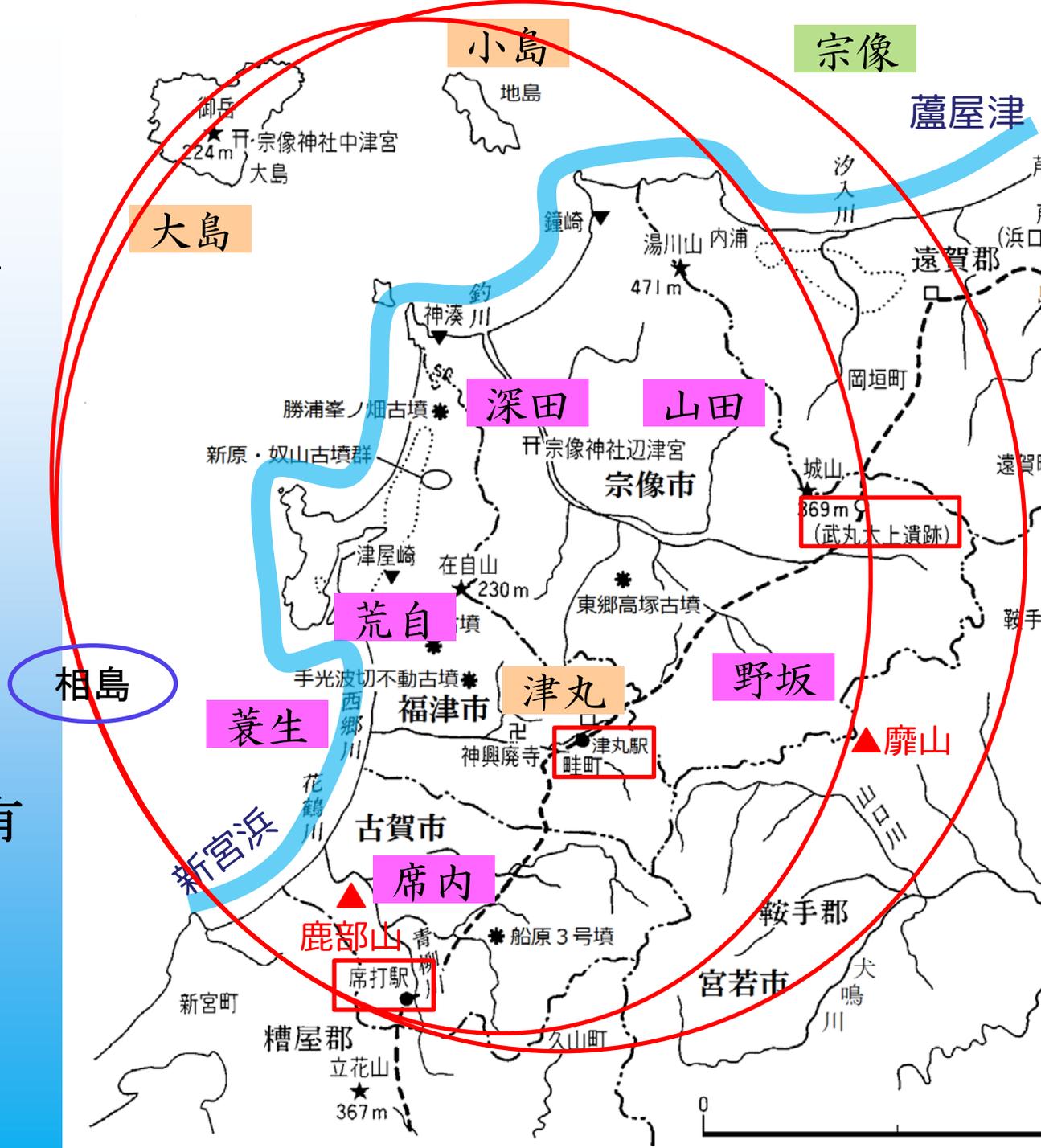
秋

怡土

荒木

海部

辛家



古代宗像氏の勢力

- 沖ノ島祭祀
- 瀬と水上交通
- 北部九州有数の古墳群
- 渡来系の文物

- 宗像三女神
- 宗像神社〈三座〉
- 大領と宗像神主
- 神郡
- 多くの郷、広い郡域



王権との深い結びつきを背景とした
強大な勢力



今後も宗像地域の厚く、特異な歴史を
明らかにしていくことが必要。

<参考文献>

木下良「律令制下における宗像郡と交通」『宗像市史』通史編第二巻、
古代・中世・近世、1999年

小嶋篤「墓制と領域」『九州歴史資料館研究論集』37、2012年

佐々田悠「記紀神話と王権の祭祀」『岩波講座日本歴史』2、岩波書店
、2014年

大高広和「古代宗像郡郷名駅名考証（一～三）」『沖ノ島研究』1～3、
「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議、2015～2017年